

## 北海道積丹半島西南部の地下資源調査

調査者 菊地 徹

### 概要

国富・余市・稲倉石・大江などの有名鉱山のある積丹半島の南部一帯は、古くから有望な鉱床の賦存地帯として知られている。

特にその西部には銅・鉛・亜鉛・硫化鉄およびマンガンなどの小鉱床が非常に多く分布しているが、現在稼行中のものはない。

今回の調査は本地域の地下資源の開発を促進するための先行調査で、地質と鉱床の特徴をつかみ今後の探査指針を得た。(Vol.5 No.1)

ハチマンタイ

### 八幡平西部の硫黄鉱床

調査者 安斉俊男・井上秀雄

### 概要

秋田・岩手両県にまたがる有名な観光地八幡平の西部一帯には、活火山の焼山(1,366m)を中心として噴気孔に富む温泉が多く、この噴気孔周辺には大抵地表近くに生じた昇華硫黄鉱床がある。

また焼山の噴火口内や後生掛温泉の泥火山周辺には高品位の沈澱硫黄鉱床がある。

これらのうち主なものは、北投石で知られている玉川温泉の噴気孔に伴う昇華鉱床及びその附近の昇華鉱床(玉川鉱山)、焼山噴火口内の沈澱鉱床(宮川鉱山)、後生掛沈澱鉱床(両口鉱山)で、いずれも45%~65% S程度の高品位鉱を産出する。



ただ、この地域は交通運搬に不便なことと、鉱床が他の地方の交代鉱床等と比べてやや規模が小さいと考えられるのが欠点とされる。

なお八幡平東方には有名な松尾鉱山があるので、この地域にも大規模な交代鉱床の存在を予想する考えは強く従来から探査の対象となつているが、いまだ有力な鉱床は発見されていない。(下図参照) (Vol.5 No.1)

## 岩手県安比・倉形鉱山の硫黄鉱床

調査者 上野三義・小村幸二郎

### 概要

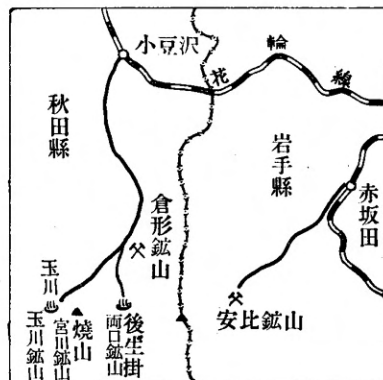
安比鉱山は花輪線赤坂田駅の南西約17km、安比温泉の南方にあり、倉形鉱山は同線小豆沢駅の南方約24kmの所にある。

安比鉱山：地質は八幡平熔岩類・集塊岩・凝灰岩・角礫凝灰岩等からなる。鉱床は集塊岩・角礫凝灰岩等を交代鉱染したもので、主としてS5~15%程度の硫化鉄からなる小塊状鉱体が点在する。

倉形鉱山：地質は安比鉱山に同じ。鉱床は凝灰岩・集塊岩等を交代

鉱染したもので、鉱化作用は安比地区に比べて弱く、また変質帯もせまい。

(Vol.5 No.1)



奈良県生駒けい石・長石鉱山の近況

調査者 塚脇祐次・竹内忠雄



概要

近畿地区に広く分布する花崗岩類中には、数多くのペグマタイト質の塊状あるいはレンズ状

のけい石・長石の鉱床が胚胎している。

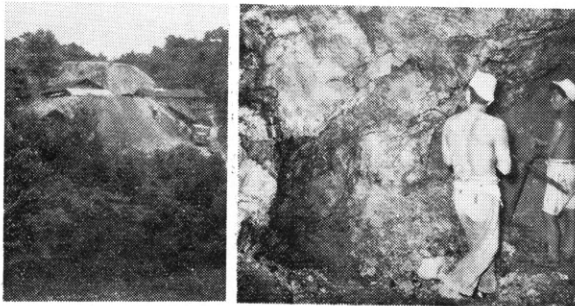
生駒けい石・長石鉱床は奈良県生駒郡北倭村に胚胎するもので、現場までトラック道路が完備し、運搬の便はきわめて良い。現在稼行中。

地質は黒雲母花崗岩を基盤とし、これを不整合に被覆する新第三系の粘土あるいは砂層からなる。

この地区にはほぼ南北性の構造線が発達し、けい石・長石鉱床も黒雲母花崗岩中にほぼ南北にのびた塊状あるいはレンズ状の鉱体であつて、芋山・二ツ池・甚池等の6個の鉱体があり、このうち現在稼行中の芋山鉱体は最も大規模なものである。

鉱石はけい石を主とし、これに長石を伴いやや黒味を帯びた灰白色を呈するが、品質はきわめて良好である。

(Vol.5 No.1)



生駒けい石・長石鉱山

同坑内

北海道大江鉱山のマンガン鉱床

調査者 小関 幸治

概要

大江鉱山は明治23年に発見され、大正初期までは金・銀鉱床として稼行されたが、その後幾多の変遷を経て最近ではマンガン鉱床として再開、あわせて銀・鉛・亜鉛鉱をも産出している。

鉱床は西南北海道のいわゆる訓縫統に属する流紋岩質

角礫凝灰岩・同質凝灰岩及び変朽安山岩中の罅裂を充填



する鉱脈群で、50条余が知られているが、その中で主要なものは数脈である。

この鉱床の西方約5.5 kmにはこれと

類似の稲倉石鉱床があるが、両者は一連の鉱化作用によるものであろう。鉱床生成条件としての地質構造及び母岩の変質状況の点からのみすれば、この地域には更に新鉱床発見の可能性はある。(Vol.5 No.2)

近畿地区の磁硫鉄鉱産地について

調査者 北 卓 治

概要

近畿地区内の磁硫鉄鉱産地を調査し、その分布及び地質構造の関係が一応明瞭になつたので次に示す。

即ち下図のように大略、琵琶湖を通る南北方向に“帯”として、ある幅をもっている。また鉱床附近に露出する岩脈又は岩株状の酸性岩の方向も、大略この帯の示す南

所在地	No.	鉱 山	母 岩	関係火成岩	
福井	今立郡下	2	文室、牧谷	古生層(石灰岩)	岩脈状石英粗面岩
	敦賀郡下	3	野 坂	同上( " )	同上
	三方郡下	4	福 良	同上( " )	岩株状黒雲母花崗岩
	坂井郡下	1	劍岳地区	同上( " )	?
滋賀	蒲生郡下	5	御 池	古生層	岩株状黒雲母花崗岩
	甲賀郡下	6	鮎河、青土	同上(石灰岩)	同上
	伊香郡下	3	木ノ本	同上	?
奈良	吉野郡下	7	川 迫	古生層	石英斑岩
和歌山	東牟婁郡下	8	道 湯 川	古第三紀層	岩脈状石英粗面岩
	西牟婁郡下	10	皆瀬、和田	同上	同上

北性に一致する。

南紀ではこの鉱床が第三紀層中に胚胎することは珍らしく、今後の研究によつて南北方向の鉱床生成区が確認されれば、第三紀の地質構造解明に興味深いデータとなる。

(大阪駐在員事務所)

